

## インターバンクの声（2017年1月4日）

明けましておめでとうございます。

年末から年始にかけても穏やかな相場が続いて・・・と行きたかったが、1月3日に世界の主要市場で真っ先にオープンしたアジア市場は、ドル/円が約60銭、ユーロ/ドルも60ポイント強、豪ドル/ドルも70ポイント余りドル高方向に窓を空けて始まった。その後、日中は動きが止まったが、ロンドン市場では早速米金利の上昇などを背景にしてドル買いの勢いが強まり、ニューヨーク市場が始まる前にドル/円が118円台、ユーロ/ドルは1.03ドル台まで上昇した。

ニューヨーク市場では、欧州の株高に続き、米国株も上昇して始まっていたことや、米ISM製造業景況指数が堅調だったため、ドル/円は一時118円60銭まで上昇したが、その辺りから米金利が低下、株価も急反落し始め、原油価格の下げなどが重なったことからドルが反落、117円台前半まで売り込まれた。

それでも主要通貨の足元の水準は、年末よりもドル高の水準になっており、トランプ次期米大統領の経済政策への期待感が依然として高いことを象徴しているような相場だ。ドル/円の120円、ユーロ/ドルのパリティー（1ユーロ=1ドル）が1月20日のトランプ大統領就任前に付けるかどうかが見ものだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。